

幼児教育の更なる質の向上を

全日本私立幼稚園連合会 会長 香 川 敬



新年にあたり、全ての子どもたちの成長と各園のご発展を心からお祈り申し上げます。

去年、私の園の子どもたちに、改めて大切なことに気付かされました。

一つは「降誕会」という行事でのことです。お茶をたてる、お客さんをもてなす、お茶をいただくという流れの中で、子どもたちは、古くからの伝統文化における所作を丁寧に行っていました。「世の中の人たちに大切にされているはずのことに自分はかわっている」という実感を持たせる学びがそこにはあるのだと、強く思わずにはいられませんでした。それが、本来の「基礎・基本」であり、「生きる力」であろうと思ったのでした。

二つ目は、卒園式での年中組の子どもたちの様子です。口を閉じ、美しい姿勢で、じっと見守ることが、お兄さん、お姉さんたちを尊重することなのだ、子どもたちはしっかり理解していることが見て取れました。自分ではない、他の存在そのものを尊重することの意味を、子どもたちなりに正しく認識しているのだと確信した次第です。このような、決められた形、所作をきちんと学ぶ、型を守る、型を身に付けるということが、まさしく「成熟の第一歩」なのです。この一歩の上からこそ、主体性の芽生えがあるのです。

一方、計画された教育・保育の時間の中で、様々な「遊び」を通して、子どもたちは学んでいきます。教育課程に設けられた「遊び」の中で生まれる工夫や失敗、熱中、のめり込み等々は、子どもたちに思考や協働の機会を生み出し、その場は、「子どもが自分と他人に出会う地平」となります。

このような様々な活動の中で育つ力は何なのか、今、改めて見直してみなければならないと考えます。幼児教育の無償化が実施され、幼児教育の更なる質

の向上が求められる今こそ、それぞれの園の職員全員の英知を結集し、実践を通して発見したこと、浮かんできた疑問、戸惑い、ささやかな喜び、静かに積み重ねてきた自信、あるいは失敗—それらを出し合い、語り合っていたきたいのです。

再検討する時の手がかりになるものとして念頭におきたいものが、二つあります。その一つが「非認知能力の向上は、大人になってからの安定した生活に貢献する」というジェームズ・ヘックマンの研究結果です。もう一つは、21世紀型の新しい学力・能力を獲得していくためには、「認知、非認知能力両面の涵養と学び方の見直し」が必須であるということ。

実は、「非認知能力」の育ちは、明らかに、日々の教育・保育の実践の中で達成されつつあるものです。「遊び」の中での試行錯誤、あきらめない心、失敗や葛藤を乗り越える力、達成感や協働の喜び。行事を通して得る自制心、道徳性、忍耐、そして、自信。こうした日々の営みの中で生まれる価値の再確認を園全体でしてほしいのです。場づくりは適切であったか、育ちの見取りのための教師の構えは十分だったか、立ち位置、言葉掛けは最適であったか、子どもの失敗や葛藤を見守り受け容れることができたか、価値付けした後の保護者への発信はどのようにされたか、そのためのふさわしい言葉や表現を獲得できたか等々、次に向かうための新たな課題を発見し、進んでほしいと願っています。

民主的な社会、持続可能な発展に寄与する教育を目指し、その担い手としての子どもたちを育てていくのだという教師としての覚悟と意欲。そこに灯をともしのが各園の園長の最優先の課題ではないでしょうか。

次代を担う子どものために～幼児教育の振興に向けて～ 幼児教育振興法の実現を願い盛大に開催



▲安倍晋三内閣総理大臣、衆議院議員

12月10日、午後1時から東京・オークラ東京プレステータワーにおいて、全日本私立幼稚園PTA連合会（河村建夫会長）の第34回PTA全国大会が開催されました。「次代を担う子どものために～幼児教育の振興に向けて～」を大会テーマに、全国各地から保護者代表、幼稚園関係者など約1,200人が参加しました。

本会では安倍晋三内閣総理大臣、萩生田光一文部科学大臣代理の上野通子文部科学副大臣、馳浩自由民主党幼児教育議員連盟事務局長がご臨席され、PTA連合会からは河村建夫衆議院議員（全日私幼P連会長）、遠藤利明衆議院議員（全日私幼P連副会長）が出席され、衆議院、参議院合わせて85名の国会議員ご臨席のもと、盛大に開催されました。

第1部の大会式典は、遠藤利明全日私幼P連副会長の開会あいさつの後、河村建夫全日私幼P連会長があいさつをされ、最後に全日私幼連の香川敬会長があいさつをされました。

来賓祝辞では、まず安倍晋三内閣総理大臣からご祝辞をいただきました。続いて萩生田光一文部科学大臣の代理で上野通子文部科学副大臣、そして馳浩自由民主党幼児教育議員連盟事務局長からご祝辞をいただきました。



来賓紹介では、森屋宏自由民主党幼児教育議員連盟事務局次長から出席された来賓の国会議員一人ひとりのご紹介が行われました。

最後に、月本喜久全日私幼P連副会長から今大会の大会宣言案が読み上げられ、満場一致で採択されました。

遠藤利明全日私幼P連副会長の閉会のことばで第1部の式典が終了しました。

第1部の式典終了後、こどもがまんなかPROJECTアワード表彰式が行われ、受賞団体を代表して福島県、郡山市私立幼稚園・認定こども園連合会が表彰されました。



▲こどもがまんなかPROJECTアワードで表彰された取組が発表されました



上野通子氏
文部科学副大臣
参議院議員



馳浩氏
自由民主党幼児教育
議員連盟事務局長
衆議院議員



河村建夫氏
全日私幼 P 連会長
衆議院議員



遠藤利明氏
全日私幼 P 連副会長
衆議院議員



香川敬氏
全日私幼連会長

続いて、こどもがまんなかPROJECTオフィシャルスポンサーである、ステッドラー日本株式会社様より活動のご報告がありました。

第2部の記念講演は、Zホールディングス株式会社代表取締役社長 CEO（兼ヤフー株式会社代表取締役社長 CEO）の川邊健太郎様より「私が考えるこどもたちの未来」をテーマにお話いただき、盛会のうちに会を終了しました。



▲川邊健太郎氏、Zホールディングス株式会社代表取締役社長 CEO

宣言

私たちは、次代を担う子どもたちの心豊かな人間としての成長や幸福を願い、子どもたちにとっての最善の利益を実現するため、家庭教育の向上、幼児教育の振興を目的として、子どもたちがはじめて出会う学校である私立幼稚園・認定こども園と手を携え、努力することを宣言します。

一、私たちは、子どもたちの教育の原点が、家庭にあることを再認識し、家族が協力し合って絆を深めます。家庭が子どもにとって最も安心でき、共に学び合える場になるよう努めます。

一、私たちは、心豊かな子どもを育むために、私立幼稚園・認定こども園の教育をとおして、子どもとともに「生きる力」を学び合い、積極的に自己

研鑽に努めます。

一、私たちは、地域の人々との絆を深め、心をつなげて、自然災害や事故、環境汚染等から子どもたちの生命を守り、安心して暮らすことのできる地域社会づくりの支援に努めます。

一、私たちは、「幼児教育振興法」の制定へ向けての運動を積極的に展開します。

一、私たちは、幼児教育の無償化に伴い私立幼稚園・認定こども園とともに幼児教育のさらなる質の向上に努めます。

令和元年12月10日

第34回全日本私立幼稚園PTA連合会 全国大会

CHAPPY 園児管理シリーズ クラウド対応 園児管理システム



園長

出席の管理
未就園児管理
バスコース管理
承認機能完備



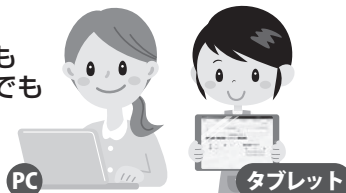
先生

パソコン内ではなく
データセンターでの
管理になるので
セキュリティに
優れています。



個人カリキュラム
検査記録
課外活動一覧
指導計画

パソコンでも
タブレットでも
使えます！



PC

タブレット

園で役立つ機能が満載！ しかも簡単入力で時間削減。
チャイルド社の園児管理システムは、
忙しい先生を応援するためのシステムです。

開発・販売



株式
会社

チャイルド社 コンピュータ部

〒167-0052 東京都杉並区南荻窪4-39-11 TEL 03-3333-2345
ホームページアドレス <http://www.child.co.jp/>

令和 2 年度概算要求（幼稚園関係）、 令和元年度上半期決算・監査についての報告と （公財）全日私幼研究機構より事業活動の報告

12 月 9 日、東京・私学会館において、全日私幼連団体長会・理事会合同会議が開催され、54 名（定足数 62 人）が出席しました。

田中辰実副会長による開会の言葉に続き、香川敬会長が挨拶を述べました。議長に平栗裕治氏（福島県）と、内橋彰氏（長崎県）が選出され、議事録署名人には千葉一道氏（静岡県）と宮地彌典氏（高知県）が選任され、議事に入りました。

■行政報告：文部科学省高等教育局私学部私学行政課長・松坂浩史氏より私立学校法の改正による学校法人の運営に関して、役員の職務及び責任の明確化等今回の変更部分について詳細な説明がありました。

■審議案件：令和 2 年度全日私幼連会費（案）について

坪井久也総務委員長より、令和 2 年度全日私幼連会費についての提案がなされ、説明ののち、提案通り議決されました。

■報告案件（1）：令和 2 年度概算要求（幼稚園関係）について

水谷豊三政策委員長より令和 2 年度概算要求について報告があり、香川敬会長より補足の説明がありました。

■報告案件（2）：令和元年度上半期決算・監査報告について

坪井総務委員長より令和元年度上半期決算の報告があり、佐藤三幹監事より監査報告が行われました。

■報告案件（3）：幼児教育の無償化について

坪井総務委員長より、認可外保育施設の確認の取扱い、子ども・子育て支援新制度一部改正に伴う留



意事項、令和元年 10 月以降の公定価格の単価案の見直し、預かり保育の質の向上等、国より発出された文書の説明がありました。

■報告案件（4）：会務運営報告について

各委員会の委員長、プロジェクト座長から、会務の進捗状況について報告がありました。

【総務委員会】①災害見舞金の支給（案）について②第 34 回全日本私立幼稚園 PTA 連合会全国大会について【政策委員会】①第 12 回都道府県政策担当者会議について②市町村向け「幼児教育・保育の無償化への取組」アンケート結果について③子ども・子育て会議〈内閣府〉について④特定子ども・子育て支援施設等の指導監査について【教育研究委員会】①令和元年度園長・リーダー研修会の開催について②第 10 回幼児教育実践学会実施について③文部科学省委託研究事業について④内閣府子ども・子育て会議（公定価格に関する検討事項）について【経営研究委員会】①第 35 回設置者・園長全国研修大会の開催について②私立幼稚園・認定こども園経営実態調査の実施について③幼稚園ナビについて④就業規則関連諸規程例の改訂について⑤後継者育

成研修会について【広報委員会】①委員会の開催について②PTA しんぶん 9月号（特別号）全園児配布について③第11回ようちえん絵本大賞について④令和2年度賛助会員の申込みについて【102条園委員会】①研修会の開催について②委員会の開催について③令和元年分青色申告について【認定こども園委員会】①認定こども園移行園を対象にした全国研修会の開催について②経営研究委員会所管「経営実態調査」の質問項目の集計作業について③子ども・子育て支援新制度に対する提言事項について④無償化後の現状分析と今後の対応に向けての検討について【こどもがまんなかPROJECT】①こどもがまんなかPROJECT 打合会について②こどもがまんなかPROJECT アワードについて③フォトコンテストの実施について④こどもがまんなかPROJECT 協賛タイアップ企業募集説明会について⑤「ランドセル読本」の配布について【政令指定都市特別委員会】①委員会の開催について②政令指定都市特別委員会研修会の開催について

他に、JK 保険 4 社の幹事会社である東京海上日動火災保険株式会社様より、2019 年度 JK 保険募集速報ならびに、2020 年度に向けた制度改定のご案内として、私学法改正に伴う役員賠償責任保険の追加ラインナップを中心に説明をいただきました。

（総務委員長・坪井久也）

●（公財）全日私幼研究機構報告会

続いて会議は、（公財）全日私幼研究機構『事業活動報告会』に移り、東重満（公財）全日私幼研究機構理事長と加藤篤彦研究研修委員長より令和2・3年度教研課題における重点課題の説明の後、処遇改善Ⅱに係るキャリアアップ研修への対応として文科省分野と俯瞰図との関連について、三府省課長から都道府県知事にあてて発出された通知に基づいてお話がありました。

また、学校評価の推進としてECEQの取組についてや、リーフレット配布の告知もなされ、今後ますます求められる質の高い幼児教育の提供に役立ていくための（公財）全日私幼研究機構の活動が報告され、会は終了しました。

保育力の向上のために

資質向上の取組の証明に

キャリアパスや免許更新のために
研修の記録を大切に残しておきましょう！

監修 公益財団法人 全日本私立幼稚園幼児教育研究機構

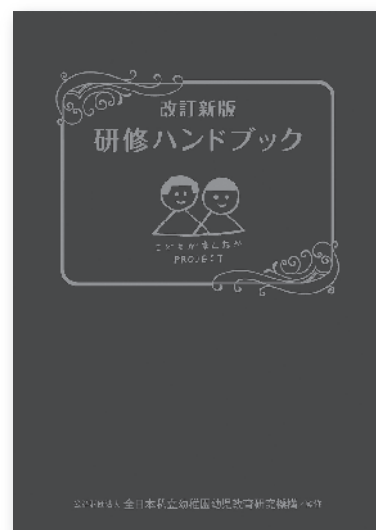
改訂新版 研修ハンドブック

4145301 本体 **600 円 + 税**

●B6 判
●112 ページ

ご用命はお近くの書店、またはワンダー販売会社まで。

株式会社 世界文化社 ワンダー CS 事業本部
TEL03-3262-5128



令和2年度 幼稚園関係予算案の概要について

1. 幼児教育無償化の実施 3, 410億円

幼児教育の無償化は、予定通り 2019年10月から全面実施されました。本連合会がこれまで強く要望し続けた幼児教育の無償化が、ついに実現されることとなりました。幼児教育は、生涯にわたる人格形成の基礎を培う重要なものであり、無償化により、全ての子供たちに質の高い幼児教育が保障されます。また、幼稚園が行う預かり保育についても、保育の必要性がある場合は無償化の対象になることとなりました。

2. 私立高等学校等経常費助成費補助金（幼稚園分）272億円

◆一般補助<162億円>

○園児1人あたり単価：24, 212円（263円増／1. 1%増）

※幼児教育無償化に伴い生じる事務負担への対応等

○幼稚園教員の人材確保の取組に対する支援を引き続き実施

◆特別補助<110億円>

○幼稚園等特別支援教育経費<64億円>

○預かり保育推進事業<36億円>

○幼稚園の子育て支援活動の推進<11億円>

私学助成については、厳しい財政状況にも関わらず、幼児教育無償化に伴い生じる事務負担への対応等を勘案し、園児一人当たり単価1. 1%増を確保するとともに、特別な支援が必要な幼児の受入れや預かり保育に対する支援の充実が図られました。



チャイルドブックの月刊保育雑誌

Pot

ポット

2020年度のPotは
大特集 & プチ特集の
**W特集で
保育力アップ!**

2020年度のポットは、じっくり読める大特集と、
手軽に読めるプチ特集の2本立。スキルアップに必ず役立ちます。

定価 本体 1,000円 + 税

<http://www.childbook.co.jp/pot/>

チャイルド本社

〒112-8512 東京都文京区小石川 5-24-21
TEL 03-3813-2141 FAX 03-3814-3392
<http://www.childbook.co.jp/pot/>

ご注文は、貴園担当のチャイルドブック販売店
または書店まで。

3. 幼児教育の環境整備の充実 40億円

令和元年度補正予算 160億円

◆認定こども園等への財政支援<35億円>

※令和元年度補正予算にて150億円

認定こども園の設置・促進を図るため、認定こども園の施設整備・園舎の耐震化・防犯対策に要する経費の一部を補助するとともに、幼稚園教諭免許と保育士資格の併有促進や、研修等の実施費用、園務改善のためのICT化を支援する。

- ① 認定こども園施設整備交付金 25億円
- ② 教育支援体制整備事業費交付金 10億円

◆私立幼稚園の施設整備の充実 <5億円>

※別途令和元年度補正予算にて10億円

緊急の課題となっている耐震化に取り組むとともに、学校法人立幼稚園等の施設のアスベスト対策・防犯対策、エコ改修等に要する経費の一部を補助することにより幼稚園の環境整備を図る。

幼児教育の環境整備の関連予算として、認定こども園への移行に伴う施設整備等のための認定こども園施設整備交付金については、令和元年度補正予算等とあわせて、約175億円計上されています。

緊急の課題となっている耐震化やエコ改修等のための私立幼稚園施設整備費については、令和元年度補正予算等とあわせて、約15億円計上されています。

4. 幼児教育の質の向上 3.9億円

●幼児教育実践の質向上総合プラン <3.53億円>

・幼児教育推進体制の充実・活用強化事業 <1.9億円>

地方公共団体において、公私立幼稚園・保育所・認定こども園に対して一体的に域内全体の幼児教育の質の向上を図るため、担当部局の教育・保育内容面に係る事務の一元化や幼児教育センターの設置等、幼児教育の推進体制を構築している都道府県及び市町村を対象に、幼児教育アドバイザーの配置及びそれらを活用した研修支援、幼小接続の推進等に必要な費用の一部を補助する。

・幼稚園教諭免許法認定講習等推進事業 <0.29億円>

幼稚園教諭免許状の上進のための免許法認定講習等の開設数が少ないことから、講習等の開設支援を通じて一種免許状の取得機会を拡大し、幼稚園教諭の専門性の向上を図る。

・幼稚園の人材確保支援事業 <0.76億円>

幼稚園教諭の新規採用促進、離職防止・定着促進など、各地域における幼稚園の人材確保に向けた先導的な取組を支援し、有効な方法を検証・普及する。

・ 幼児教育の教育課題に対応した指導方法等充実調査研究 <0. 58 億円>

小学校教育との接続、家庭教育との連携、教育活動や園運営の評価の実施、Society5.0時代の先端技術を活用した指導方法の開発等、教育課題に対応した指導の在り方を調査研究する。また、障害のある幼児や外国人の幼児など特別な配慮を必要とする幼児の受入れを行う教諭等が必要とされる知識を得ることができるよう、必要となる研修プログラムの開発及び指導上の配慮に関する研究を行う。

● 幼稚園教育課程の理解の推進 <0. 26 億円>

新幼稚園教育要領の理解について、各幼稚園が適切な教育課程を編成、実施する上での参考資料を作成するとともに、研究協議会を行う。

● OECD ECEC Network 事業への参加 <0. 11 億円>

OECD において計画されている調査に参加し、質の高い幼児教育の提供に向けた施策展開に向けて重要な基礎情報を収集する。

幼児教育の質の向上の関連予算としては、幼児教育の無償化とあわせて、地方公共団体における幼児教育推進体制の充実・活用強化、幼稚園等における人材確保の取組支援並びに幼稚園教諭の専門性向上に向けた免許上進の推進、教育活動や園運営の評価の実施、Society5.0時代の先端技術を活用した指導方法の開発等の調査研究を行うとともに、障害のある幼児や外国人の幼児など特別な配慮を必要とする幼児への指導上の配慮に関する研究事業等が実施されます。

5. 子ども・子育て支援新制度関係予算案（私立幼稚園に関する事項抜粋）

◆ 国家公務員給与の改定に伴う待遇改善（幼稚園教諭 1.3%）

※令和元年度に遡及して適用

◆ 給食実施加算の充実・適正化（自園設備で適切な衛生管理の下給食を実施する場合の加算単価を増額するとともに、外部搬入の場合の単価を適正化）

◆ 主幹教諭等専任加算の要件弾力化（充実した幼小連携によっても取得可能に）

◆ 公開保育と施設関係者評価の促進（ECEQ等の公開保育と学校関係者評価を組み合わせ実施する場合の、施設関係者評価加算の単価を増額）

◆ 栄養士の配置促進（栄養管理加算の拡充）

◆ 一時預かり事業<幼稚園型>の充実

- ・ 特別な支援を要する子どもの特別単価の創設
障害児を受け入れた際の日額単価を抜本的に充実
- ・ 保育を必要とする2歳児の受入れへの補助（幼稚園型Ⅱ）の継続
幼稚園で保育を必要とする2歳児（3号認定）を定期的に預かる場合の補助制度である一時預かり事業（幼稚園型Ⅱ）を継続して実施。

令和元年度の公定価格においては、平成 30 年度人事院勧告を踏まえた待遇改善（1.3%）が反映されるとともに、自園設備での適切な衛生管理の下での給食実施や、栄養士の配置による食育の推進、幼小連携、公開保育と組み合わせた施設関係者評価といった幼児教育の質の向上に向けた取組を公定価格上評価するための改善がなされる見込みです。

また、一時預かり事業（幼稚園型Ⅰ）においては、預かり保育において特別な支援を要する幼児を受け入れた場合の特別単価が創設される見込みであり、各園における障害児等の受入れのための体制充実が可能となります。また、平成 30 年度に創設した一時預かり事業（幼稚園型Ⅱ）についても継続して実施されます。

令和 2 年度予算については、幼児教育無償化の本格実施に向け、加盟園のご支援・ご協力をいただきながら香川会長を先頭に強力かつ懸命に折衝活動を続けた結果、厳しい財政状況にもかかわらず、例年以上に①預かり保育体制の充実②私学助成園の事務負担への手当③子ども・子育て支援新制度の公定価格の改善・充実が可能となるなど大幅な増額となるこのような幼稚園関係予算を獲得することができました。

参考資料として、全日私幼連ホームページに

① 令和 2 年度幼稚園関係予算

(https://youchien.com/info/news/tfpkv100000011j5-att/youchienkankei_R2.pdf)

② 令和 2 年度子ども・子育て支援新制度に関する予算

(https://youchien.com/info/news/tfpkv100000011j5-att/kodomokosodate_R2.pdf)

を掲載しております。そちらも併せてご覧ください。

(株)学研教育みらい

東京都品川区西五反田 2-11-8
幼児教育事業部

お問い合わせは
フリーダイヤル 0120-833-415

園ぴゅう太のメールサービス



サーバー二重化!

らくらくメール
園から保護者へらくらくメール送信！
組別・個別送信、既読確認もできます。
サーバー二重化で、いざという時も安心です。

スマホで

らくらくバスメール
スマートフォンでバスメールを送信！
大きなボタン表示で画面操作もらくらく。
タップするだけでメール送信できます。



**ぜ～んぶ学研に
おまかせ!!**

心機一転！
リニューアル

オリジナル！
**キャラクター
ロゴ**

Flashで
動画!

らくらくホームページ
目的やご要望に合わせて作成し、学研が更新
もお電話・FAXで対応します。
「お知らせ更新は園で…」というご要望にも
システム併用でご対応いたします。

新しい保育の物語 —保育の質・倫理と政治・リアルユートピア—

12月1日、東京大学・伊藤謝恩ホールにおいて、東京大学大学院教育学研究科附属発達保育実践政策学センターと、（公財）全日本私立幼稚園幼児教育研究機構の共催国際シンポジウムが開催されました。今回は「新しい保育の物語—保育の質・倫理と政治・リアルユートピア—」をテーマに講演と指定討論、そして登壇者による対話が行われました。

東重満（公財）全日私幼研究機構理事長と浅井幸子東京大学発達保育実践政策学センター副センター長による開会挨拶のあとユニバーシティ・カレッジ・ロンドン名誉教授のPeter Moss氏により講演が行われました。

その後、東重満（公財）全日私幼研究機構理事長、秋田喜代美東京大学大学院教育学研究科長による指定討論が行われ、それぞれの立場からお話がありました。

続いて小玉重夫東京大学大学院教育学研究科教授がモデレーターとなり、Peter Moss 名誉教授、東重満（公財）全日私幼研究機構理事長、秋田喜代美東京大学大学院教育学研究科長を登壇者として迎え、対話が行われました。

最後に浅井幸子東京大学発達保育実践政策学センター副センター長より閉会挨拶があり、本シンポジウムは終了いたしました。



▲ Peter Moss 氏による講演



▲登壇者による対話の様子

幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領に準じた指導計画

月刊 保育とキャリア

毎月2日 発売



ひかりのくに株式会社

本社/〒543-0001 大阪市天王寺区上本町3-2-14 TEL.06-6768-1151代表
支社/〒175-0082 東京都板橋区高島平6-1-1 TEL.03-3979-3111代表



令和2年度のお申込みがはじまります

「私幼時報」を毎月手に取っていただいております先生方には、(公財)全日本私立幼稚園幼児教育研究機構の諸事業に対し、平素より格別のご理解を賜り感謝申し上げます。

本財団に設置されている調査広報委員会発行のPTAしんぶんは「子どものしあわせを願う親と先生のひろば」として大切な機関紙と位置づけ企画・編集作業を行っています。

ロゴの刷新や、文字を読み易く大きくするなど、紙面のリニューアルを行い、より皆様に身近な機関紙となるべく日々邁進しております。とりわけ令和元年9月号においては、特別号と位置づけ、令和元年10月からはじまった幼児教育・保育の無償化をテーマに8面構成で加盟園全園児を対象に発行いたしましたところ、反響は大きく、保護者の皆様からうれしいご感想の声を沢山お寄せいただきました。

「PTAしんぶん」は、(公財)全日私幼研究機構の活動趣旨にご賛同いただける方に賛助会員になっていただき、その会員に対する機関紙という形で配布しております。幼稚園単位でのお申し込みとなり、年間会費250円で11回新聞が配布されます。

現在PTAしんぶんを採用いただいております園数は、全加盟園の23%です。このPTAしんぶんを来年度も継続して発行するのに伴い、継続してお申込みいただいている園はもちろん、新規でのお申し込みも大歓迎です。ぜひ賛助会員としてのご入会をお願いいたします。

なお、PTAしんぶんを希望される幼稚園は、各都道府県私立幼稚園団体経由でのお申し込みになります。詳しくは、各幼稚園にお送りする案内をご覧ください。令和2年1月末から2月上旬にかけての案内の発送になります。

(公財)全日本私立幼稚園幼児教育研究機構 調査広報委員会



『創刊10周年!』

地域で愛される園になるためのサポートブック



B5判 72ページ
ISBN978-4-577-81466-6 742

園のリーダーのために 保育ナビ



2020年2月号

定価: 本体価格 926 円+税

●特集 保育と写真の関係を考える

記録や共有のために写真を活用する機会が増えていきます。専門職として写真を通して子ども理解を深めることは大切ですが、「いい写真」を撮ることに専念すれば保育が疎かになるでしょう。子どもの姿に心が動き撮るという行為が、保育においてどのような可能性と課題をもつのか。保育と写真の関係を考えます。

本社: 〒113-8611 東京都文京区本駒込 6-14-9 <https://www.froebel-kan.co.jp>
ご注文・定期購読のお申し込みは 03-5395-6608 保育事業部営業本部まで

キンダーブックの **フレイベル館**

「チームはまよう」の保育の質を高める園内研修のすべて

～チームの高い関係性が生み出す、自発的な園内研修システム～

幼保連携型認定こども園 はまようちえん 発表者：樋口 詩菜 関野 純子



はじめに

はまようちえんでは18年前、園長交替に伴いそれまでの園のあり方を抜本的に見直す園改革に着手した。改革の土台としたのが「体験学習法」をベースにしたファシリテータティブな園内研修。園を「チーム」と位置づけ、ファシリテーターが園内研修を企画運営するその研修スタイルは、初任者からトップマネジメントまでの意識と行動を変容させ、保育のみならず園全体の質が大幅に向上することにつながった。最近リーダーが自発的に園内研修をプロデュースし、後輩の育成を行っており「自ら学び、ともに育ちあうチーム」として日々自己研鑽するようになった。近年はこの研修スタイルを多くの園に紹介させていただく機会（団体研修や免許更新講習）も得ている。今回のポスター発表では、現在「チームはまよう」が実施している全園内研修を『園内研修の松竹梅3類型』に沿って紹介する。



「ハタさん」による

園内研修の松竹梅3類型

保育現場の園内研修のテーマは、大きく三つに分けられる。最も一般的に研修と呼ばれているものは、子ども理解のための保育カンファレンスなど現場の保育実践に直接的に関係する「いま、目の前にある問題」に取り組む【竹】研修（保育実践研修）。その上位には、教育要領や建学の精神（園の理念）を学んだり園長訓話を拝聴したりするような「既にあるものを理解」するための【松】研修（保育基礎研修）。そして3つ目が、保育に直接関係しないためほとんど実施されることがない「見過ごされている問い」を扱う【梅】研修（チームづくり研修）である。チームが質の高い保育を目指すとき、この梅研修が実はもっとも優先的（初期）に選好されなければならない。なぜなら「保育はチームで行うものであり、質の高いチームの関係性無しに質の高い保育は不可能」と考えるからである。

梅研修で強固なチームの土台（メンバー相互の尊重と信頼が生み出す風通しのよい風土）をつくることによって、日々の竹研修で自由闊達に保育を語り合うことができるようになり、さらには保育への深い理解が独自の教育課程を創造する松研修を可能にする。形成期・混乱期・統一期・機能期と成長し「自ら学び、ともに育ちあうチーム」となっても、定期的に梅研修を実施することが質の高さを維持する秘訣といえる。

※組織の成長段階を示すタックマンモデル

保育基礎研修



松

教育要領
教育課程
建学の精神
園長訓話

既にある
ものの理解

変えられない
従うべきもの

正答について
学ぶ

保育実践研修



竹

子どもの育ち
行事の計画と反省
仕事の段取り
年間目標
期のねらい
月案、週案

いま、目の前
にある問題

差し当たって
する必要がある

正答を生み出す
学び

チームづくり研修



梅

自園はどんな園？
じぶんたちの強みって何？
自園がたいせつにしている事
私たちはこうありたい

見過ごされて
いる問い

なんとなく
わかっている

正答を求めない
学び



はまよう 園内研修 「松竹梅」

ポイント

関係性の向上を図る「梅」研修を土台に、チームの風通しを良くし、自由闊達にコミュニケーションできる風土を醸成しています。そのことが、「竹」研修の場で、子どもの見取りや保育について、自分の思いを素直に語ることができ、チームのみんなできちんと取り組むことが難しいと考えられている「松」研修にも、全員で取り組めることにつながっています。



チームづくり研修

「ハタさん」プロデュース研修

新年度キックオフ合宿

自発的な研修へ



新しい職員チームで新年度が始まります。私とチームメンバー、一人ひとりの在り様を見つめ直し、おたがいの新たなつながりをつくること（チームビルディング）を目的に一泊二日の合宿研修を行っています。

現場のリーダープロデュース研修

2・3年目フォローアップ研修

チームの中での自分の良さがわからず伸び悩む3年目を見た現場のリーダーが、確かな自信を持って欲しいという願いから、研修を立案。学期に一回、フォローアップ研修を行い、一人ひとりが自分の「強み」と「弱み（課題）」をオープンにすることで、チームのなかでの自分らしさや得意なことへの自信を深めています。



保育実践研修

「ハタさん」プロデュース研修

ねらいづくり MTG

自発的な研修へ



今の子どもの姿から、子どもの育ちを理解し、次の体験を計画するために、ねらいづくりを行っています。年間をⅠ期からⅣ期にわけて、各期ごとと年間のねらいを年齢別に作成。チームのみんなでミーティングを重ねながら作り上げ、見直しを行っています。

現場の先生プロデュース研修

園庭あそび MTG

はまようは、「みんながみんなをみている一つの家族」という行動指針を大切にしています。園庭では、クラスや学年という枠を超え、子どもも先生も、好きな場所で好きな遊びをして過ごしています。計画や振り返りをようちえんかぞく（3～5歳児部門）全員で共有し、現場で連携をとることで、より豊かなあそびの環境づくりにつなげる事を目的に、MTGを開始しました。



保育基礎研修

教育課程作成

2011 年度

変革してきた 10 年分の実践を形に！

現場の先生と一緒に作り上げてきた、2002 年から 2011 年の過去 10 年分のねらいを、「ハタさん」がまとめたものを「現場の先生」と合意形成。



2016 年度

異年齢にふさわしい内容へ

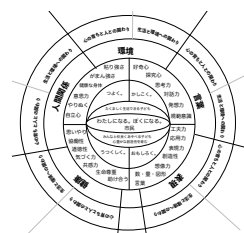
3・4・5 歳児異年齢保育をスタートして 1 年が経過し、同年齢保育でのねらいをベースに作成した教育課程の見直すため、「ハタさん」・園長と「現場の先生」が共に話し合い、改訂を行う。



2019 年度

変わってきた子どもの姿に合わせて
ブラッシュアップ

認定こども園（異年齢保育）として保育を培ってきた 4 年間で、子どもの姿が変わってきた。子どもの育ちに合せて、期のねらいの内容（はまようが育てたい子ども像）が変わってきたため、新しいスタイルの教育課程の作成に取り組む。『現場の先生』が自主的に MTG する中で、今はまようの子どもの育ちにとって理想的な教育課程の在り方を模索しながら作成している。



まとめにかえて

～チームディレクター「ハタさん」のチームへの期待～

改革前、2001 年までの『はまよう』は、ひと言で表現すると「特徴がないのが特徴の幼稚園」だった。2002 年より「チーム」「ファシリテーション」「体験学習」というキーワードで園内研修を核に改革を開始した。当時は参加型（ワークショップスタイル）の研修は（幼児教育界において）まったく重要なトピックスではなく、日々の園内研修は（結果が見えない）不確実性のなかでの実施だった。チームメンバーが少しずつお互いを知り合い、オープンマインドを手に入れ、ポジティブに気持ちよく仕事ができるチームの土台ができた、と宣言できるまでに 5 年。何度かの、必要で意味のある「血の入れ替え」を経て年々チームは進化し、12 年目頃から「自ら学び、ともに育ち合うチーム」となったと実感できる地点まで来ることができた。

現在そんな「機能期」にあるチームにあっても最上位の課題は「チームの関係性の維持」であり、その重要性を理解するリーダー層が（本発表で示した）自主的に行う梅研修を実践したり、新しい行動指針（motto）を作ったりしている。

いまでも昔も、チームとして目指すのは「メンバー全員がファシリテーター」であり、互いに問いかけあう対話を重ねながら保育の本質を追究する「学習する組織」である。現在はチームキャプテン（主任）がインタープリター（つなぎ役）となってミドルリーダー、サブリーダーとともに主体的にチームのメンテナンスを行えるようになってきた。これからは、高い関係性とモチベーションを維持しながら、より深い次元の保育に対する対話が「じぶんたちだけで」できるように、一人ひとりのメンバーが『Profaith』を磨いてほしい。

日本私立学校振興・共済事業団からのお知らせ

表紙写真・園紹介記事を募集しています



表紙写真

春季は入園式、遠足、夏季はプール開き、お祭りなど、四季折々の季節感ある学園風景の写真を募集しています。

連載「魅力あふれる学校づくりを目指して」

幼稚園での施設整備に関すること、園児の体力づくりや情操を育む日々の取り組みなど、様々な事例を紹介してみませんか。

過去の掲載

【表紙】

◆令和2年1月号(VOL.265)／玉虫学園

【表紙および記事】

◆令和元年7月号(VOL.259)／しずわでら学園

「魅力あふれる学校づくりを目指して」

原点に立ち返ることによって生まれたふじおかメソッド

〒102-8145 東京都千代田区富士見 1-10-12

企画室 ☎ 03 (3230) 7809～7811 ✉ kikaku@shigaku.go.jp

「しーちゃんと学君のちょっと学校訪問」

園の伝統行事や音楽・スポーツ活動、地域活動への参加など、「レター」で紹介してみませんか。

特色のある園づくりの様子や、園児が生き生きと学んでいる様子を事業団職員が取材にお伺いします。

過去の掲載

◆令和元年7月号(VOL.128)

ことばと心を声のにせて(京都女子大学附属小学校)

◆平成31年1月号(VOL.125)

感動したぶんだけ、大きくなる 森のものがたり(森のこども園)

◆平成30年3月号(VOL.120)

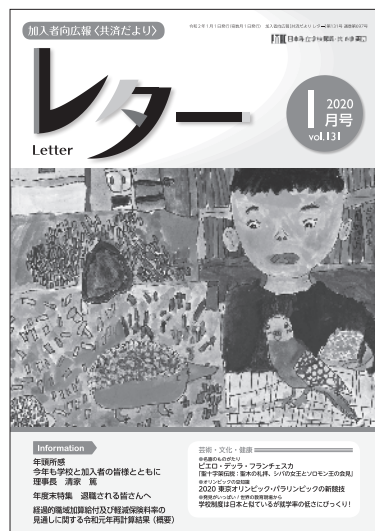
地域密着!客車劇場(富士見幼稚園)

過去に掲載した記事は私学共済ホームページ〔加入者用ページ▶私学共済制度の刊行物▶レター〕にも掲載しています(右記コードからアクセスできます)。ログインIDとパスワードは私学共済ブック〔保健・宿泊編〕及び「レター」をご確認ください。

〒113-8441 東京都文京区湯島 1-7-5

<https://www.shigakukyosai.jp/>

広報相談センター 広報班 ☎ 03 (3813) 5321 (代表)



台風被害から災害対策を考える

台風 15 号は千葉では過去最強クラスの勢力で 9 月 9 日（月）に千葉市に上陸。多くの屋根、看板などが飛ばされたり無数の樹木や電柱が倒れたりし、長期にわたり停電が続きました。

今まで大きな台風被害を経験していない千葉では一夜明けての惨状に何をどうしてよいか呆然とするばかりでした。職員、園児の安否は？ なんとか各家庭に休園のお知らせをして園庭の瓦礫、倒木の跡片付けをするものの、電気、水、ガソリンもなく、スーパーも閉店で、いつ復旧するのか不安な毎日が続きました。幸い園は金曜日には電気が復旧したので再開することができましたが、その後も多くの家庭で停電が続きました。そして、多くの家屋がブルーシートのまま、さらに、台風 19 号とその日に発生した竜巻で甚大な被害を受けることになってしまいました。当園の卒園児の家も竜巻により被害を受け、跡形も無くなってしまいました。そしてまたブルーシートを張りなおした後、10 月 25 日に発生した記録的な大雨による浸水被害と土砂崩れの被害も受けてしまいました。

東日本大震災以降、災害対策を整備してきたつもりでしたが自然の脅威の前に無力なこと、日頃の安全への過信を痛感しました。家庭などに連絡する様々なツール、災害用備蓄、避難経路の確認等災害時のマニュアルを再考して今まで以上に非常時に備える必要性を感じました。今回の災害では人と人との絆、人の思いやりが大きな心の支えとなりました。他県の方からも千葉に多くの支援、エールを送って頂き、本当にありがとうございました。心から感謝いたします。

（（一社）全千葉県私立幼稚園連合会広報委員長、市原市・あすなろ幼稚園／澤大輔）

市町村キャラバン

大分県私立幼稚園連合会では、2011 年（平成 23 年）より、市町村行政へのアプローチとして、私立幼稚園がある各市町村を訪問する「市町村キャラバン」を実施しています。8 年目の今年度も 8 市町村を訪問する予定です。

当初は、私立幼稚園の窓口となる市町村はなく、私立幼稚園が何を要望するのかと身構える市町村ばかりでした。2019 年、今となっては、子ども・子育て支援新制度が 2015 年（平成 27 年）に施行後、施設型給付園はもちろんのこと、私学助成園の無償化の対応は市町村となり、私立幼稚園の市町村窓口は当たり前となりました。

振り返ってみますと、2015 年（平成 27 年）の新制度施行に向け、2013 年（平成 25 年）より、市町村版子ども・子育て会議が始まりましたが、その会議に必ず私立幼稚園関係者を入れていただくために、市町村キャラバンを通してお願いをしてきました。今まで関わりが無かったため、私立幼稚園への理解が乏しく、「好き勝手に保育をし、お金儲けをしている」と思われていた節もありましたが、活動の成果として、大分県では、私立幼稚園がある全ての市町村版子ども・子育て会議に、私立幼稚園関係者が参加することができました。2019 年の新制度 5 年見直しを迎え、各市町村での事業計画には、私立幼稚園関係者が参画し、幼児教育の振興、街づくりの一躍を私立幼稚園が担っています。

私立幼稚園は市町村行政との関係を深め、その街の幼児教育の振興に努めなければならないと考えます。これから先も「市町村キャラバン」を行い、市町村との繋がりを深めていきます。

（大分県私立幼稚園連合会政策振興委員長、国東市・むさしこども園／正本秀崇）

編集後記

昨年12月のはじめに「第11回ようちえん絵本大賞」選考会が厳かにおこなわれました。ご好評頂いておりますこの賞の選考に携わらせて頂き、はや8回目となります。毎回私の場合、一年間かけてリサーチした数十冊の作品の中から、およそ10作品ぐらいに絞り込み、そこからさらに3作品を候補作として選びます。これを（ひとり絵本大賞）と勝手に呼んで、毎回あーでもないこーでもないと独り楽しく選ばせて頂いております。そこから、実際の選考会で大賞に選ばれた作品もあり、そんな時はまるで自分のことのように嬉しく、そこに至るまでに費やした時間や苦勞もすーっと消えるように報われます。さあ、今回はどんな作品が大賞に選ばれたのでしょうか？ 今春4月に発行されます「PTAしんぶん4月号」紙上での受賞作発表をどうぞお楽しみに！

（調査広報専門委員・前田幹）

まさかのときの“JK保険”

全日本私立幼稚園 連合会の保険

JK保険は、全日私幼連が指定した損害保険会社の協力を得て、加盟園のために開発した制度です。団体契約となっており、団体割引・優良割引が適用されており、個々にご加入される場合より割安となっております。本年も4月1日に向けて募集が開始されておりますので加入のご検討をお願い申し上げます。

本保険制度に関するご案内は全日本私立幼稚園連合会HP（<https://youchien.com>）または私幼時報3月号に掲載いたしますのでご覧ください。

令和元年度（第12回）免許状更新講習の認定一覧

●選択領域「受講者が任意に選択して受講する領域」に関する免許状更新講習

講習の開催地	講習の概要	担当講師	時間数	講習の期間	受講数	認定番号
宮城県 仙台市	加藤先生の講義では「保育の中の子どもの声」をテーマに、子どもの「声」を聴き取り正當に評価する保育の姿を「対話」という視点から考察する。鎌田先生と関先生には「幼児理解と援助の在り方」をテーマに幼稚園教育要領をもとに、現代の幼児を取り巻く生活や環境の変化を踏まえた指導上の課題を探り、就学前の学ぶ土台作りの基礎をどのように確立していくかを考察する。	加藤 繁美（東京家政大学 教授） 鎌田 文恵（聖和学園短期大学 教授） 関 澄子（豊岡短期大学 非常勤講師）	6時間	令和2年3月24日	200人	平31-80011-509135号



遊具：HOUSE

未来は、あそびの中に。

偉大なる発明も、世界を変えた公式も、
あそびから生まれた。

あそびは、すべての創造の源です。

あそび力を伸ばすことは、未来を切り拓くこと。
創造力をのばす。共感力をはぐくむ。ルールをまなぶ。
あそびから、こどもは無限の力を羽ばたかせていく。

あそびの環境に、あざやかな驚きを。

私たちは、未来をつくる仕事です。

